

2018年度 日本臨床検査医学会 第4回理事会 議事録

日 時：2018年10月27日（土）13：30～16：30

場 所：日本臨床検査医学会事務所

出席：矢富 裕 理事長、山田俊幸副理事長、村上正巳総務理事、古川泰司会計理事、東條尚子庶務理事
宮地勇人、久谷直人、木村 聡、古田 耕、松尾収二、大西宏明、柴田綾子、長沢光章、下 正宗、
藤井 聡、東田修二、田中靖人、小柴賢洋 各理事（18名）

欠席：吉田 博、萱場広之、通山 薫、松永 彰 各理事 高木 康、福武勝幸 各監事（6名）

矢富裕理事長から挨拶があり議事を進めた。

I 報告事項

1. 支部報告

各支部報告の2018～2019年度の支部例会・総会予定、支部地方会予定、支部所属の人事変更等について報告された。

2. 各種委員会報告

1) 学術推進化委員会（東條尚子 庶務理事 吉田 博 担当理事欠席のため）

平成30年度学術推進化プロジェクト課題に6課題の応募があり3課題を選考した。平成26・27学術推進プロジェクト研究で、採択された4課題のうち、2課題の研究代表者は、研究終了後6ヶ月経過しても臨床病理に原著論文も総説論文も投稿しなかったため、委員長より総説原稿を依頼し、その後、2課題の総説原稿が臨床病理に投稿された。2019年より、他誌に投稿する場合、当初の規定では研究終了後6ヶ月を過ぎてもよいとしていたが、研究終了6ヶ月以内に臨床病理に総説を投稿するよう規定を変更した。

第65回学術集会前日、11月15日（木）14時から学術推進化委員会を、11月16日（金）16時30分から、平成28-29年度学術推進プロジェクト研究結果最終報告を開催することが報告された。

2) 編集委員会（村上正巳 担当理事）

2018年9月19日に事務局で委員会を開催した。

日本医学会からの医学雑誌編集とCOI管理にかかるアンケート調査について、編集委員会回答箇所については、学会誌の著作権、出版サイクル、査読指針、COIの質問項目があり回答したこと、会員への「臨床病理」冊子での配布を止めweb版とし、外販は従来通り冊子とし、コスト削減の試算を行ったうえで検討すること、「日本臨床検査医学会雑誌」等への誌名変更について検討したこと、電子版の英文誌について、雑誌タイトル、発行回数、投稿方法、査読方法を検討したこと、トピックステーマを検討したこと、投稿論文の審査進捗状況について報告された。

3) 臨床検査点数委員会（東條尚子 担当理事、古川泰司 委員長）

2018年6月26日に開催された内保連第1回社員総会で、平成30年度社会保険診療報酬改定の総括があり、日本臨床検査医学会の要望28項目に対し10項目の要望が反映された（要望通り7項目、一部反映3項目）を確認したこと、内保連からのアンケートに対し、今回改定での同一項目の点数齟齬を指摘し、AI利用の基盤となる臨床検査データの共通基盤を用いた場合の加算提案を行ったこと、臨床検査振興協議会への次期提案リスト（2018/9/15 締切）について、平成30年度改定の提案で要望が反映されなかった内容を含め26項目の提案を提出したこと、第65回学術集会（2018/11/16 金）に、第1回委員会を開催することが報告された。

4) 学会賞委員会（松尾収二 担当理事）

学会賞・功労賞に関する規定について、若手研究者奨励賞応募資格の40歳未満の時点について募集年の1月1日の時点で40歳未満であること、優秀論文賞について1年以上の会員歴が必要であるが、どの時点をもって会員歴1年とみなすかについて、編集委員会から学会賞委員会へ推薦する時点と改定する提案があり、承認された。

5) 利益相反委員会（通山 薫 委員長欠席のため東條尚子 庶務理事）

役員 COI 自己申告用書式の修正をおこなったこと、また、常任理事会からの変更依頼については、学術集会期間中の委員会にて審議予定であることが報告された。

6) ガイドライン作成委員会（吉田 博 委員長欠席のため東條尚子 庶務理事）

9月1日に第1回ガイドライン作成委員会を開催した。

臨床検査のガイドライン 2018 作成の執筆進捗状況と今後のスケジュールを確認し、事前最終確認を第2回ガイドライン作成委員会にて実施し、2018年12月刊行予定としたこと、「日常初期診療における臨床検査の使い方」について議論し成案を得たこと、第2回ガイドライン作成委員会は、第65回学術集会の11月17日（土）8時から開催することが報告された。

7) 広報委員会（木村 聡 担当理事、小柴賢洋 委員長）

2017年度より「レジデントノート」誌に連載「臨床検査専門医がコッソリ教える・・・検査の Tips!」は好評のため来年度も継続予定であること、10月24日に臨床検査振興協議会の広報編集委員会を開催したことが報告された。

8) 医療安全委員会（東條尚子 庶務理事 吉田 博 担当理事欠席のため）

10月3日開催の日本医療安全調査機構の臨時社員総会に中谷委員長が出席し、医療事故調査制度の現況報告があったこと、第65回学術集会の11月16日13時から委員会を、11月18日（日）8時から医療安全講習会を開催すること、11月23日に名古屋で開催される医療安全全国共同行動会員連絡会議に中谷委員長が出席予定であることが報告された。

9) チーム医療委員会（柴田綾子 担当理事）

第65回学術集会で、委員会シンポジウムを実施することが報告された。

10) 臨床検査管理医試験実行委員会（東田修二 委員長）

8月5日に帝京大学で第10回臨床検査管理医講習会・認定試験を実施し39名が受験し、9月1日に第2回臨床検査専門医・管理医審議会において39名全員が合格基準に達していることが確認され、合格が承認されたことが報告された。

11) 臨床検査専門医制度検討委員会（木村 聡 委員長）

2018年10月16日（火）18:00~20:20に開催され、日本専門医機構による新専門医制度の運用状況、厚労省からの新たな通知等を踏まえ議論した委員会での内容が報告された。

1) 旧来の学会専門医の名称と将来の運用について

日本臨床検査医学会臨床検査専門医の呼称は「学会認定臨床検査専門医」とする。

機構専門医の試験は2021年に開始されるが、2020年までに合格しなかった学会専門医受験者は、機構専門医の認定試験を受験し、学会規準で可否を判定する。なお、この措置は2025年まで原則続ける。

機構専門医か学会専門医更新の選択は2021年度更新まで可能。その後の学会専門医更新の要件は今後詳細を議論する。

2) 学会内に血液診断専門医などサブスペシャリティ専門医を新設することを検討した。

3) 検査部長と専門医制度の関わり、とりわけ中小病院における専門医のあるべき位置付けについて検討した。

4) 臨床検査専門医の適正数について検討し、全国の基幹病院に臨床検査専門医を配属するため、プログラム制・カリキュラム制を合わせ、毎年50名の専門医輩出を当面の目標とする。

5) 機構専門医制度下におけるサブスペシャリティ交渉の進捗状況について確認した。

12) 精度管理委員会（宮地勇人担当理事）

2018年10月6日（土）15：00～17：15に事務局で開催された。

2018年度中間のCAP国際臨床検査成績評価プログラムの、参加施設数は107施設であること、2019年度以降のCAP新規サーベイ項目として、血液凝固検査、骨髄像検査、病理組織FISHなど13項目を実施することとなったこと、2年ごとに実施しているCAPサーベイについての満足度調査アンケートを、日本臨床検査医学会として参加している施設にもアンケートを実施予定であること、臨床検査室グローバルニュースは春号、夏号が発行済で秋号が2018年10月25日発行予定、2019年1月25日に発行予定であること、精度管理委員会内規について議論していること、検体検査の品質・精度の確保に係る医療法等の改正について情報共有のもと、特に外部精度管理の課題整理と方向性について議論したことが報告された。

3. 第65回学術集会報告（東京2018/11/15(木)～11/18(日)、村田満会長）（東條尚子 庶務理事）

2018年11月15日（木）～11月18日（日）に、京王プラザホテル（東京）において、村田満会長（慶應大）のもと「新しい医療を支える検査の力」をテーマに開催予定であり、特別講演、招聘講演、特別企画、教育講演、共催シンポジウム、委員会企画、セミナー等のプログラム内容が報告された。

4. 第66回学術集会報告（岡山2019/11/21(木)～11/24(日)、通山薫会長）（東條尚子 庶務理事）

2019年11月21日（木）～11月24日（日）に、岡山コンベンションセンター（岡山）において、通山薫会長（川崎医大）のもと開催予定であり、学術集会企画委員会での今後3年間におけるテーマの分担やシリーズ企画の進め方等について協議中であること、UMINセンターでの演題登録システムを使用することとなり使用料を支払ったこと、日本医学会連合からの連携フォーラム共催事業企画については、基礎系または社会系学会が対象のため医療情報学会との連携を検討していることが報告された。

5. 第11回特別例会報告（名古屋2019/4/13(土)）（前川真人 特別例会長）（東條尚子 庶務理事）

2019年4月13日（土）9：00～17：00に、名古屋国際センター（別棟ホール）で、前川真人特別例会長（浜松医大）のもと、テーマ：「臨床検査医学、次のディメンジョンの幕開け」として、第11回日本臨床検査医学会特別例会が開催予定であり、特別講演、例会長講演、シンポジウム1、2、ランチョンセミナーを予定していることが報告された。

6. 第65回全国検査部長・技師長会議（東京2018/11/15(木)）（村上正巳 総務理事）

第65回学術集会前日お11月15日（木）15：00～16：30に京王プラザホテルで検査部長・技師長会議が、テーマ「働く臨床検査技師の学術的キャリアアップのために」として開催予定であるが、だれでも聴講可能であることを確認したうえで、会員にメールで周知することが報告された。

7. ASCPaLM 報告（宮地勇人 理事）

2018年9月6日～8日（木・土）にモンゴル、ウランバートルで、第15回ASCPaLM2018が開催され、8カ国120名（日本からは8名）が参加し、99演題の発表があったこと、当会アジア交流基金からの補助金50万円は、本会議の運営に有効に使用されたこと、当会からのASCPaLM未納会費8年分合計800ドル（1年：100ドル）を支払ったことが報告された。

8. 内閣官房健康・医療戦略室からの依頼に対する意見について（村上正巳 総務理事）

9月14日付で日本医学会連合を通じて、内閣官房健康・医療戦略室からの次期の健康・医療戦略、医療分野の研究開発計画検討にあたり、健康寿命の延伸に必要な取り組みについての意見募集（10月19日曜日）があり、理事に意見を求めたうえで、村上正巳総務理事が当会としての意見をまとめ10月18日に回答したことが報告された。

9. 本学会からの関連団体委員推薦について（更新）（矢富裕 理事長）

9月27日に厚生労働省から「臨床検査技師国家試験出題基準改定検討会 委員」の推薦依頼があり、

10月1日に東條尚子先生を推薦したことが報告された。

10. その他

特になし。

Ⅲ 審議事項

1. 第35回臨床検査専門医認定試験最終会計報告(東京 2018/8/4-8/5) (古川泰司 実行委員長)

第35回臨床検査専門医認定試験の会計収支は、9月1日の第3回理事会でも報告したが、今回、数字が確定したため最終報告がなされ、承認された。

2. 2018年度中間実績報告・2019年度予算案について(古川泰司 会計理事、矢富 裕 理事長)

2018年度中間実績は、1月1日～6月30日までの実金額での報告である。

中間実績が2017年度と2018年で大きく差があるのは、収入・支出の時期の違いによるという説明があった。

2019年度予算案では、一般会計ではJACLaSからの寄付金の減額、外販収入、広告収入などの収入減のほか、新専門医制度に係わる費用等により、費用が不足するため特別会計より500万円を一般会計に補填する予算立てをした。特別会計では、一般会計への補填500万円、そして、MyPage費用500万円を計上した。

アジア交流基金、学会賞基金については、例年同様の予算となっている。

なお、学会の財政状態が厳しい状況が続いているため、学術集会補助金、学会機関誌発行費用等の見直し、会費値上げなどの対応を協議しており、今後、対応策を提案できるよう検討していることが報告された。

以上、審議のうえ承認された。

3. 2018年度中間事業報告について(東條尚子 庶務理事)

2017年度中間の事業報告がなされ、承認された。

4. 2019年度事業計画(案)について(東條尚子 庶務理事)

2018年度事業計画(案)の説明がなされ、承認された。

5. 2019年度からの名誉会員・功労会員・社員(評議員)の推薦について(矢富 裕 理事長)

名誉会員、功労会員、評議員の推薦について、資格要件が確認され、次の通り、名誉会員、功労会員、評議員として承認された。

1) 名誉会員として尾崎由基男先生

2) 功労会員として東北支部から賀来満夫先生、関東・甲信越支部から池淵研二先生、大西明弘先生、庄司 優先生、竹村 譲先生、戸塚 実先生、中西邦昭先生、宮島栄治先生、渡邊 卓先生の8名、東海・北陸支部から柴田 宏先生、白石泰三先生、和田英夫先生の3名、九州支部から宇治義則先生、栢森裕三先生の2名、合計14名。

3) 評議員として、東北支部から鈴木啓二郎先生、森兼啓太先生の2名、関東・甲信越支部から井上克枝先生、大川龍之介先生、蔵野 信先生、小池由佳子先生の4名、東海・北陸支部から井上貴子先生、中国・四国支部から上岡樹生先生、九州支部から宇野直輝先生、田崎雅義先生の2名、合計10名。

6. 評議員(社員)再任予定者(2019/01/01付)について(矢富 裕 理事長、東條尚子 庶務理事)

2019年1月1日付評議員再任予定者31名が提示された。再任手続きは、12月下旬の評議員審査委員会での審査、審議会後となるが、評議員再任には社員総会の承認が必要のため、本理事会、11月15日の臨時社員総会の承認を得ておきたい。ただし、再任の単位を満たさない場合は退任となる。

2018年1月1日付の評議員再任予定者31名について承認された。

7. 第 68 回 (2021 年度) 学術集会の推薦について (矢富 裕 理事長)

理事会でも承認されていた学術集会企画委員会からの提言に基づき、関東・甲信越支部と東海・北陸支部から推薦された第 68 回 (2021 年度) 学術集会長の候補者に関して議論した。

両候補とも高い評価を受け、甲乙つけがたいとなり、第 68 回 (2021 年度) は東海・北陸支部からの推薦候補者、第 69 回 (2022 年度) は関東・甲信越支部からの推薦候補者をそれぞれの学術集会長とする提案がなされ賛同された。しかし、当初の議題は第 68 回 (2021 年度) の学術集会長だけであり、第 69 回 (2022 年度) の学術集会長も決定するのは問題があるとの指摘があったため、決定には至らなかった。

そのため、改めて、両支部に、第 68 回 (2021 年度) に加え、第 69 回 (2022 年度) の学術集会長の推薦を依頼したうえで、次回理事会 (12/22) で、審議のうえ決定することとなった。

8. 評議員の選出に関する細則の改定について (会則改定委員会 メ谷直人 担当理事、東條尚子 委員長)

評議員選出に関する細則で規定されている過去 5 年間の学術集会への参加と発表に関して、過去 5 年間に 3 回以上参加するのは変わらないが、一般演題発表についての発表年の縛りを廃止して、1 回の学術集会に 3 回発表でも認める改定案が提示され、承認された。

9. 基準範囲 WG (仮称) について (矢富 裕 理事長)

前回の理事会において、基準範囲に関する用語に関して、学会が指針を示すため WG を設置することが承認されていたが、本 WG の委員長を前川真人先生に、委員は、桑克彦先生、東條尚子先生、古田耕先生、山田俊幸先生に依頼する提案があり、承認された。

10. 第 52 回北海道支部総会の誌上開催、発表者の業績認定の検討依頼について (矢富 裕 理事長、藤井 聡 北海道支部長)

北海道支部支部長の藤井聡先生から、9 月 6 日に発生した北海道支部地震の影響で中止になった 9 月 8 日に開催予定だった第 52 回北海道支部総会 (第 28 回日本臨床化学会北海道支部例会と合同開催) について、支部例会は誌上開催したこととして、一般演題発表者は国内学会発表業績として認定の要望があったことについて審議し、承認された。なお、同時開催の日本臨床化学会においても同様の措置で承認されている。

11. My Page について (東條尚子 庶務理事)

本年度より会員名簿の発行を止め My Page を導入し、そこでの掲載を予定していた。現在、当会としての My Page 仕様、必要事項などを精査、検討している。費用は 500 万円の予算を計上しているが、今後、見積りをとり常任理事会、理事会で継続審議する提案があり、承認された。

12. 2018 年度に係わる定時社員総会について (矢富 裕 理事長、東條尚子 庶務担当)

2019 年 3 月 23 日 (土) の理事会、定時社員総会終了後に、2017 年同様、講演会を行うこととなっていたが、講演は奈良信雄先生と前川真人先生にお願いし、奈良先生には「医学教育分野別評価から見た医学教育改革の動向 (仮題)」(座長: 東田修二先生) を、前川先生には「ゲノム医療の臨床検査について」(座長: 山田俊幸先生) を講演いただくこととなった。なお、講演に関しては、会員も聴講可能とし会場の都合上 200 名程度を上限とする予定である。

以上が承認された。

13. COI 自己申告書について (矢富 裕 理事長)

COI 申告書の未提出者への対応について厳格にすることが提案され、承認された。本件については、利益相反委員会で検討いただくこととなった。例として、3 年続けて未提出の場合は委員会委員等を停止すること、臨床病理誌上での開示の際に具体的項目をあげること、また、学会発表時のスライドによる利益相反の開示は確認ができるよう静止すること等があげられた。

14. 専門医制度関連事項について（山田俊幸 専門医担当理事）

2018年スタートプログラム制・カリキュラム制専攻医について、2018年度に日本専門医機構臨床検査領域研修プログラム制の専攻医は4名（東京慈恵医大2名、東海大1名、富山大1名）であり日本専門医機構にて承認され4月より研修を開始した。

一方、カリキュラム制の専攻医は17名（群馬大2名、千葉大2名、日大1名、東大1名、信州大1名、東海大4名、岐阜大1名、神戸大2名、兵庫医大1名分、愛媛大1名、九州大1名）であり、当会新専門医制度研修プログラム認定委員会にて審査のうえ承認し、4月より研修を開始したこと、日本専門医機構の役員、各委員会委員長が交代となり、当会からの基本領域研修委員会、基本領域専門医委員会、基本領域連携委員会委員については、機構より同一人の推薦依頼があり、専門医担当理事でもある山田俊幸副理事長を推薦したことが報告された。

15. 厚労省医政局医師法第十六条の八第一項の意見及び第十六条の九の要請について（矢富 裕 理事長）

2018年10月16日付で厚生労働大臣名にて、標記規定である「地域枠医師や出産、育児等合理的な由のある専攻医に対してカリキュラム制度を整備していることを示し、カリキュラム制を用いた専攻医の数毎年公開すること」への学会としての今後の対応についての回答要請（11/2期日）があり、11月2日に、学会をあげて社会から信頼される日本専門医機構基本領域臨床検査専門医の養成に尽力していること、カリキュラム制研修に関して、意義を十分に認めて整備し、学会HPにカリキュラム制研修専攻医募集のための専攻医登録システムを備えていること、今後も、専攻医が安心感をもち研修に臨むことができるよう、明解なカリキュラム制研修を提供し、カリキュラム制を用いた専攻医の数を公表する。

なお、現時点での専攻医数は、

2017年研修開始：25名（学会カリキュラム制研修）

2018年研修開始：17名（機構カリキュラム制研修）

であり、学会カリキュラム制研修は、2017年開始を含めて合計90名であり、学会カリキュラム制と機構カリキュラム制を合計した現時点でのカリキュラム制専攻医は107名である。

と回答したことが報告された。

16. 臨床性能試験ガイドラインのあり方についての意見交換の臨薬協からの要望について（矢富 裕 理事長）

日本臨床検査薬協会から臨床性能試験ガイドラインのあり方についての意見交換の場を設ける要望があり、承諾で回答し、今後対応していくこと、なお、本件については古川泰司先生に担当いただく提案があり、承認された。

17. 衛生検査所業務・調査指導員の推薦依頼について（矢富 裕 理事長）

10月19日付で、医療関連サービス振興会から衛生検査所業務・調査指導員の推薦依頼（12/19期日）があり、例年通り、各支部に2018年12月10日（月）までの推薦依頼がなされた。

18. 社会人プログラミング教育推進運動協賛依頼について（矢富 裕 理事長）

日本医師会社会人プログラミング教育研究実行委員会より、社会人のプログラミング教育講座を、業種、職種によらず協同して推進することについて協賛依頼があり、賛同することで承認された。

19. 一般の方からのお問合せの対応について（矢富 裕 理事長）

当会、臨床検査振興協議会、日本臨床検査専門医会などに一般の方からお問合せがあった場合の対応について協議し、臨床検査振興協議会が窓口となり、適切な団体に回答を依頼し回答を得て、臨床検査振興協議会から回答する方法で対応することとなった。

20. 2019年度各契約更新について（矢富 裕 理事長）

2019年度、次項の契約更新について確認のうえ承認された。

- ・顧問（弁護士：古川俊治先生、会計：野澤孝志先生）
- ・臨床病理編集製作：宇宙堂八木書店

- ・事務委託：宇宙堂八木書店
- ・外部販売：克誠堂出版
- ・広告募集：日本廣業社、福田商店広告部、学術広告社

21. その他（東條尚子 庶務理事）

次回以降の2018年度、2019年度の理事会、定時社員総会予定が報告された。

2018年度第5回理事会：2018年12月22日（土）13：30～16：30

2019年度第1回理事会：2019年3月24日（土）学士会館

2018年度に係わる定時社員総会：2019年3月24日（土）学士会館

V 閉会の挨拶（矢富 裕 理事長）

矢富裕理事長より閉会の言葉があり本理事会は閉会された。

以上

2018年10月27日

一般社団法人日本臨床検査医学会 理事会

理事長

矢 富 裕



副理事長

山 田 俊 幸

